

仕事は人生のスパイスだ



市立函館病院 中央放射線部技術科 診療放射線技師

狩野麻名美



1 Q 診療放射線技師を目指したきっかけ

A 小さいころ病院にかかり、診療放射線技師に憧れて…など、素敵なエピソードはなく、ただ金を稼ぐ手段として『手に職をつける』これが第一条件で、『食いつ外れない』ということを前提に就職を考えました。

高校のとき、医療従事者になるという友人が周りに多かったため、いつの間にか一緒に方向に。あまり成績が良い方ではなかったので、あとは消去法でした。当時もっとも受験倍率が低い、『診療放射線技師』という職業を選びました。そんな私ですが、『診療放射線技師』という仕事は大好きです。

2 Q やりがいを感じるとき

A 自分が行った仕事をきっかけに、周りがよい方向に変化するとき、この仕事のやりがいを感じます。

過去に臨床研究をしていた頃は、自分の行った研究が臨床業務や患者さんへ還元されることにとてもやりがいを感じました。悪い方向に変化したり、自分が空回りしたりすることも多々ですが…。日々真剣に仕事と向き合いながら、全力で業務をこなしています。これは現在の仕事が好きであると同時にやりがいを感じているからだと思います。家に帰ると毎日ぐったりです。

3 Q キャリアアップについて

A レベル20問題とは、どんなゲームでもスポーツもレベル20にいくまではあまり面白くなくて、レベル20にいくと急に面白くなる現象だそうです(ドラゴン桜より)。これは私にとってとても納得の行く現象です。向いてないな、面白くないな、と思っている業務でも、本腰を入れてやると面白くなっていくというのは複数経験しました。私はこのレベル20を、後述する資格取得や学術活動と重ねて考えています。

我々の世界では、業務はモダリティで区分され、得意ではないモダリティに配属されることも多々あります。そのようなときに活躍するのはサブスペシャリティという考え方だと思います。例えば、私の得意分野はMRIですが、なかでも乳腺領域や頸動脈領域の臨床研究を多くしてきました。サブスペシャリティは乳腺領域や頸動脈領域ということになります。この領域では、MRIだけが検査ではなく、他の様々な検査を併用しながら、疾患の治療に当たります。サブスペシャリティを持つことにより、スペシャリティであるMRI以外のモダリティもレベル20まで持って行きやすくなるのではないかでしょうか。

こんな私ですが、現在は苦手と思っていた医療安全に関する業務に励んでいます。周りの方の影響もありますが、案外楽しく仕事できています。今後もレベル20を意識して業務をこなしていきたいと思います。

4 Q 資格取得について

A 仕事をし始めてから意識していることがあります。それは、勉強したことを形にするということです。資格をとったり、発表したり、というのは、その一環に